

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
日本工学院 北海道専門学校	昭和56年9月25日	福井 誠	〒059-8601 北海道登別市礼内町184-3 (電話) 0143-88-0888																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人片柳学園	昭和31年7月10日	片柳 鴻	〒144-8650 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-6424-1111																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
商業実務	商業実務専門課程	医療事務科	平成20年文部科学省 告示第11号	—																											
学科の目的	医療事務系、秘書系、パソコン系の専門的な知識と実践的な技術を身につけ、患者の立場で考え、状況を理解して行動できる人材を養成すること																														
認定年月日	平成26年3月31日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2	昼間	1700時間	1335時間	825時間	0人時間	0時間	0時間																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
40人	35人	0人	2人	7人	9人																										
学期制度	■前期:4月1日～9月25日 ■後期:9月27日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験などによる(学則23条)																											
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月20日～8月14日 ■冬季:12月20日～1月15日 ■学年末:3月31日		卒業・進級 条件	卒業要件80単位																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任、教務からの本人や保護者への連絡・相談。学校カウンセラーによるカウンセリングなど		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動、病院実習 ■サークル活動: 有																											
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) 医療事務(病院、診療所、調剤薬局) ■就職指導内容 履歴書および面接指導 ■卒業生数 11 人 ■就職希望者数 11 人 ■就職者数 11 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 2 年度卒業生に関する 明治33年1月0日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療報酬請求事務 能力認定試験</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>医師事務作業補助技能認定試験</td> <td>③</td> <td>11人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	診療報酬請求事務 能力認定試験	③	11人	9人	医師事務作業補助技能認定試験	③	11人	11人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
診療報酬請求事務 能力認定試験	③	11人	9人																												
医師事務作業補助技能認定試験	③	11人	11人																												
中途退学の 現状	■中途退学者 1 名 令和2年4月1日時点において、在学者 2 6 名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者 2 5 名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的な事情・進路変更・学校生活への不適合 ■中退防止・中退者支援のための取組 企業奨学金の促進・担任を含めた学科内教員による面談とスクールカウンセラーによる面談		■中退率 4 %																												
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ①本校の学校法人グループ校の卒業生子女、兄弟姉妹、孫、又は在校生の兄弟姉妹の入学時に入学金200,000円を免除 ②書類審査、筆記試験、面接試験の結果を基に一年次前期授業料の一部200,000円を免除 ③留学生に対し書類審査、面接試験の結果を基に2年間の授業料の一部770,000円を免除 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ■民間の評価機関等から第三者評価: 無																														
第三者による 学校評価																															
当該学科の ホームページ URL	http://www.nkhs.ac.jp																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について  
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。  
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。  
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について  
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。  
②「就職」とは給料、賞金、報酬その他定期的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。  
(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係			
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針 教育課程の編成において医療分野に関わる就業先の動向について知見の深い連携先の職員を交えて、授業科目・授業内容・授業方法等の教育課程に対する意見等を収集し・反映し、学生が実務に関する能力や知識を習得できる環境を構築できるように努力する。			
(2)教育課程編成委員会等の位置付け ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記 学科において現在実施中の教育内容を基に次年度以降に実施するカリキュラムの予定を作成する。教務課指導により教育課程編成委員会(以下委員会)を招集し、現在または次年度以降に実施する教育内容が実践的であるか検討を行う。委員会において得られた結論は、各学科が教育内容へ適用する方法の検討を行い、最終的には授業科目の開設・授業内容の改善・最新の知識や技術の導入などを行う。			
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿			
令和3年7月1日現在			
名前	所属	任期	種別
佐藤 幸夫	日本工学院北海道専門学校 教務課長 情報処理科科长兼任		
中嶋 祐介	日本工学院北海道専門学校 教育部 医療事務科		
山口 秀一	社会医療法人 製鉄記念室蘭病院 事務長	2021年4月1日～ 2023年3月31日(2年)	③
藤田 修靖	特定医療法人社団千寿会 法人本部 課長	2021年4月1日～ 2023年3月31日(2年)	③
山本 賢二	登別市役所 保健福祉部 国民健康保険グループ総括主幹	2021年4月1日～ 2023年3月31日(2年)	①
※委員の種別の欄には、 <b>企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)</b> ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。) ②学会や学術機関等の有識者 ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員			
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期) 年2回開催 (開催日時(実績)) (開催日時(実績)) 令和2年度 第1回 令和2年11月24日開催 16:30～18:00 令和2年度 第2回 令和3年 3月23日開催 16:30～18:00			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 2020年度より本科では、「医療事務専攻」「調剤事務専攻」「ドクターズクラーク専攻」を設ける。各専攻ごとに授業の内容を精査していただき、医療事務専攻ではDPCを活用し医療費計算だけではなくデータを活用できる人材育成が必要である。またドクターズクラーク専攻ではがん登録など、医師事務作業補助者が実施可能な業務もあるため授業の中で学んでいくことで現場での実践力に繋がられるのではないかなど、より現場に即応した内容をご教授していただいた。			
2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 ・医療事務業務を主に行っている企業から連携企業を選定する。 ・企業との連携により、実践的な実習・演習を構築する。 ・連携企業で学生が実務を行い、評価を企業側から得て専門的かつ実践的な実習、演習を行うことを目標とする。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 医療事務病院実習の授業を通し、医療知識・事務処理能力・患者対応など実際の医療機関で指導・監督して頂いている。			

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
医療事務病院実習	実際の医療機関で現場の仕事を体験し、実習を通して今まで学んできた知識を活かし修得する。	社会医療法人 製鉄記念室蘭病院 など

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針  
 教員のスキル向上のため以下の研修を開催または、必要に応じて外部研修への参加を行う。(片柳学園職員学内研修実施取扱細則による)

- ・実践的かつ専門的な知識・技術・技能を習得するための研修
- ・指導力の修得
- ・向上のための研修

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「医療と介護のための人事評価者育成セミナー」(連携企業等: 日本教育クリエイト 三幸福社カレッジ)

期間: 令和3年3月19日(金) 対象: 医療・介護関係職種

内容: 「人事評価を行う目的」「課題の原因を探る」「評価者のレベルを知る」「評価するとは」「評価者育成のポイント」

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「性暴力、配偶者暴力等被害者支援のためのオンライン研修「学校における被害者支援の現状と課題」

(連携企業等: 内閣府男女共同参画局男女間暴力対策課)

期間: 令和3年3月27日(土) 対象: 若年層に対して教育・啓発の機会を多く持つ指導的立場にある者

内容: 「学校における被害者支援の現状と課題」 1. 学校、家庭、社会生活における被害の実態

2. いじめにおける被害者支援 3. 性暴力における被害者支援

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「第31回 診療報酬請求事務研修会」(連携企業等: 公益財団法人日本医療保険事務協会)

期間: 令和3年10月14日(木)～15日(金) 対象: 診療報酬請求事務従事者養成施設の教職員、診療報酬請求事務従事者等

内容: 「2021年介護報酬改定と医療法改正等が診療報酬改定に与える影響」

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「職業実践専門課程に係る研修会」(連携企業等: 北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会)

期間: 令和3年8月3日(火) 対象: 全道工業系専門学校の教職員

内容: 「いま、求められている教育・求めたい教育の間で -新型コロナ下に状況をふまえて-」

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ・学校経営の改革方針や自己評価等の質を高め、次への改善につなげる
- ・学校運営や教育活動への学校関係者の協力や参画を得て、地域に開かれた信頼される学校作りをすすめる
- ・学校長は学校関係者評価の結果をもとに適切な支援や条件整備等の改善措置を講ずる

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の理念・目的・育成人材像は定められているのか。</li> <li>・学校における職業教育の特色は何か。</li> <li>・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。</li> <li>・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・学生・関係業界・保護者等に周知されているか。</li> <li>・各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか。</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的等に沿った運営方針が策定されているか。</li> <li>・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。</li> <li>・運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか。また、有効に機能しているか。</li> <li>・人事、給与に関する規定等は整備されているか。</li> <li>・教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されている</li> <li>・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されている</li> <li>・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。</li> <li>・情報システム化による業務の効率化が図られているか。</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている</li> <li>・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされている</li> <li>・学校等のカリキュラムは体系的に編成されているか。</li> <li>・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。</li> <li>・関連分野の企業・関係施設等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。</li> <li>・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか。</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか。</li> <li>・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。</li> <li>・成績評価・単位認定・進級・卒業判定の基準は明確になっているか。</li> <li>・資格試験取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。</li> <li>・人材育成目標の達成に向け授業を行う事ができる要件を備えた教員を確保しているか。</li> <li>・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか。</li> <li>・関連分野における先端的な知識・技能等を習得する資質向上のための取り組みが行われているか。</li> <li>・職員の能力開発のための研修等が行われているか。</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率の向上が図られているか。</li> <li>・資格取得の向上が図られているか。</li> <li>・退学率の向上が図られているか。</li> <li>・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。</li> <li>・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動への改善に活用されているか。</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路就職に関する支援体制は整備されているか。</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか。</li> <li>・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか。</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか。</li> <li>・学生に生活環境への支援は行われているか。</li> <li>・保護者と適切に連携しているか。</li> <li>・卒業生に対する支援体制はあるか。</li> <li>・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。</li> <li>・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか。</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている</li> <li>・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか。</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか。</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか。</li> <li>・学生募集活動は、適性に行われているか。</li> <li>・学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。</li> <li>・学生納付金は妥当なものとなっているか。</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定していると見えるか。</li> <li>・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。</li> <li>・財務に関して会計検査が適性に行われているか。</li> <li>・財務情報公開の体制整備は出来ているか。</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。</li> <li>・個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか。</li> <li>・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。</li> <li>・自己評価結果を公表しているか。</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている</li> <li>・学生ボランティア活動を奨励、支援しているか。</li> <li>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託を積極的に実施しているか。</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか。</li> <li>・留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続きが取られているか。</li> <li>・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。</li> <li>・学習成果が国内外で評価される取り組みを行っているか。</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

・休退学への取組の検討

- ① 学生と年3回、1人30分～1時間の面談を行い、学生と教員の考えを共有することで信頼関係を築き、相談しやすく休退学に向かないための仕組みづくり
- ② 欠席連絡を担当に直接行う仕組みづくり(電話対応の練習も兼ねる)、連絡がない場合は担任とクラスメイトから連絡を行い、孤独ではなく頼れる仲間や上司がいることを実感させる仕組み

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
中島 英治	登別市教育委員会	2021年4月1日～ 2023年3月31日(2年)	地方公務員
伊藤 義幸	社会福祉法人 ホープ フロンティア	2021年4月1日～ 2023年3月31日(2年)	卒業生 (校友会会)
川田 弘教	川田自動車工業株式会社	2021年4月1日～ 2023年3月31日(2年)	企業等委員
山田 正幸	登別市社会福祉協議会	2021年4月1日～ 2023年3月31日(2年)	企業等委員
吉田 武史	有限会社貴泉堂	2021年4月1日～ 2023年3月31日(2年)	卒業生
伊原 栄一	学生の保護者	2021年4月1日～ 2023年3月31日(2年)	PTA

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) ( )

URL: <http://www.nkhs.ac.jp/news/public/publicindex.html>

公開時期 令和3年8月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の精神、教育方針、教育目的(学生便覧)</li> <li>・所在地、連絡先(HP)</li> <li>・学校の沿革、歴史(学生便覧)</li> </ul>
(2)各学科等の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学者に関する受入方針(HP)</li> <li>・収容定員(HP)</li> <li>・科目配当表・科目編成・授業時数(HP)</li> <li>・年間の授業計画(HP)</li> <li>・学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等(HP)</li> <li>・資格取得、検定試験合格者等の実績(HP)</li> <li>・卒業後の進路・進学者数・進学先、就職者数・主な就職先(HP)</li> </ul>
(3)教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の組織(H28組織図)</li> </ul>
(4)キャリア教育・実践的職業教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育への取組状況(HP)</li> <li>・実習・実技等の取組状況(HP)</li> <li>・就職支援等への取組状況(HP)</li> </ul>
(5)様々な教育活動・教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事への取組状況(HP)</li> <li>・課外活動・部活動(HP)</li> <li>・カウンセリングルームなど(学生便覧)</li> </ul>
(6)学生の生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援への取組状況</li> </ul>
(7)学生納付金・修学支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生納付金の取扱金額、納入時期等(HP)</li> <li>・活用できる経済支援措置の内容等(HP)</li> </ul>
(8)学校の財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本工学院北海道専門学校の財務情報(北海道校の財務情報)</li> <li>・自己点検自己評価(自己評価(大項目 財務))</li> <li>・項目別の自己評価表(自己評価(項目別 財務))</li> </ul>
(9)学校評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検自己評価(自己評価(大項目))</li> <li>・項目別の自己評価表(自己評価(項目別))</li> <li>・学校関係者評価の結果(学校関係者の結果)</li> <li>・学校関係者評価の結果に対する改善方策(結果に対する方策)</li> </ul>
(10)国際連携の状況	なし
(11)その他	HP

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL: <http://www.nkhs.ac.jp>(ホームページ)

授業科目等の概要

(商業実務専門課程 医療事務科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		基礎医学1	医学の基礎知識や基本となる概念を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
2	○		医療保険制度	医療機関における受付事務から管理業務までの全般的な仕事の仕組みを学びます。	1・前	15	1	○			○		○		
3	○		診療報酬請求の基礎	診療報酬の点数計算を基礎から学びます。	1・前	90	6	○			○		○		
4	○		医事関連法規	保険医療機関に関する各種の制度や関連法令を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
5		○	メディカルワーク対策	医療事務技能審査試験の対策を行います。	1・前	45	3	○			○		○		
6	○		秘書知識	秘書検定に準拠した秘書の資質について学びます。	1・前	45	3	○			○			○	
7	○		プレゼンテーション	説明・発表を通して、知識の吸収から情報の整理、発表のテクニックまでを学びます。	1・前	45	3	○			○		○		
8	○		秘書実務	秘書としての基本的な情報活用能力を身に付けます。	1・前	30	1		○		○		○		
9		○	ビジネス文書演習1	ワープロソフトの機能修得および基本的な商業事務通信文、罫線および表の作成方法を修得します。	1・前	45	2		○		○			○	
10	○		パソコンの基礎	Windowsの使い方や、表計算アプリケーションの操作方法を理解するとともに、利用の仕方について学びます。	1・前	45	2		○		○			○	
11		○	ペン字1	ペン字を学びます。	1・前	15	1	○			○		○		
12	○		SPI対策	就職試験によく出るSPIの勉強をします。	1・前	45	3	○			○			○	



28	○	ペン字2	ペン字を学びます。	1・後	15	1	○			○	○				
29	○	就職対策1	就職活動のガイダンスと、就職用の模擬試験や演習を行います。	1・後	45	3	○			○	○				
30	○	保険請求演習	外来入院の保険請求の作成について演習します。	2・前	45	2	○			○	○				
31	○	医療事務検定対策講座	診療報酬・技能審査試験の対策講座を行います。	2・前	15	1	○			○	○				
32	○	ドクターズクラーク対策	医師事務作業補助技能認定試験対策を行います。	2・前	30	2	○			○	○				
33	○	診療報酬の応用1	DPC制度の概要を理解し診断群分類の決定するにあたる経緯を学びます。	2・前	30	2	○			○				○	
34	○	ドクターズクラーク実務1	医師事務作業補助者についての医療文書作成能力向上を図ります。	2・前	30	2	○			○	○				
35	○	調剤事務実務1	関連法規 および調剤事務の実務について学びます。	2・前	30	2	○			○				○	
36	○	介護概論	ケアクラーク検定に準拠した概論・患者心理・医学一般について学びます。	2・前	45	3	○			○				○	
37	○	臨床心理学	基本的な心理学に知識の習得を目指します。	2・前	45	3	○			○				○	
38	○	コミュニケーション学	医療秘書に必要なコミュニケーション能力を身に付けます。	2・前	30	2	○			○				○	
39	○	医療のマナーサービス2	ロールプレイング形式で窓口対応などについて学びます。	2・前	45	3	○			○				○	
40	○	医療実務演習1	実務でよく使用されるAccessを使ってデータを効率的に処理する方法を学びます。	2・前	45	2	○			○	○				
41	○	医療英会話	外国人患者への受付や会計など医療事務業務での様々な状況に応じた医療英会話を学びます。	2・前	45	3	○			○				○	
42	○	体育	バレーボール・バスケットボールなどの実技を中心に行います。	2・前	30	1	○			○				○	



58	○	職場見学	実務を行う職場での仕事内容について学びます。	2・後	30	1	○	○	○				
合計			58科目	2160単位時間(116.5単位)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件 80単位以上		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。